

平成 22 年 4 月 26 日

各 位

会 社 名 SBI ネットシステムズ株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 内山 昌秋
 (コード番号 2355 東証マザーズ)
 問 い 合 せ 先 経営企画部長 前田 真嗣
 電 話 番 号 03-5206-3081(代表)

営業外費用、特別損失の計上及び平成 22 年 3 月期(第 13 期)業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 3 月期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)において、下記のとおり営業外費用及び特別損失を計上いたしましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 21 年 10 月 28 日に公表した平成 22 年 3 月期の業績予想と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用、特別損失の内容

① 営業外費用、特別損失の内容(連結)

当第 4 四半期、当社連結決算において、営業外費用として当社保有の社債等の引当金 37 百万円を計上いたしました。また、特別損失として FX 系証券会社の昨今の動向をふまえ、該当するソフトウェアの評価損 225 百万円、その他固定資産等の除却損 5 百万円、当社連結子会社の保有する有価証券評価損 15 百万円、合計 246 百万円を計上いたしました。

② 営業外費用、特別損失の内容(個別)

当第 4 四半期、当社決算において、営業外費用として当社保有の社債の引当金 28 百万円を計上いたしました。また、特別損失として関係会社株式評価損 59 百万円を計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損につきましては、連結上は消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

2. 平成 22 年 3 月期の業績予想と実績との差異(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(1) 連結業績予想との差異

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,000	10	△30	△150	△359 円 05 銭
実 績 値 (B)	4,347	△433	△497	△873	△2,091 円 29 銭
差 額 (B - A)	△652	△443	△467	△723	—
増 減 率 (%)	△13.0	—	—	—	—
(ご参考)前期連結実績 (平成 21 年 3 月期)	6,055	42	47	△327	△1,004 円 87 銭

(2) 個別業績予想との差異

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	650	△85	△85	△85	△203円45銭
実績値(B)	548	△191	△188	△289	△693円52銭
差額(B-A)	△101	△106	△103	△204	—
増減率(%)	△15.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	376	△317	△314	△404	△1,240円16銭

3. 差異が生じた理由

(1) 連結業績予想との差異が生じた理由

連結において売上高は、金融機関のソフトウェア投資に積極的な姿勢が見えつつあるものの、市場の回復にまでは至らず、連結子会社における金融機関向けソリューション案件の販売計画に遅れが生じ、また当社の情報セキュリティ関連商品の販売計画等の遅れもあり、予想を下回る結果となりました。利益につきましては、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、個別の販売計画の遅れに伴う利益計画の下振れと、連結子会社における受注案件の変更及び検収の遅れにより利益計上に期ずれが発生したことや、市場環境の悪化によるプロジェクトの利益率の悪化、FX系証券会社等の動向によるソフトウェア評価損等の特別損失の計上を主因に予想数値を下回る結果となりました。

(2) 個別業績予想との差異が生じた理由

個別において売上高は、グループ向け受託開発事業へと積極的に取組んだことにより前期の売上高を上回ったものの、既存の事業である情報セキュリティ関連商品の販売計画等の遅れにより計画を下回る結果となりました。利益につきましても、事務所移転や管理部門の統合によるコスト圧縮に努めたことにより前期の利益を上回ったものの、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、個別の販売計画の遅れや利益率の低下に伴う利益計画の下振れを吸収するまでに至らず、また引当金及び関係会社株式評価損等を計上したこともあり、予想数値を下回る結果となりました。

以上